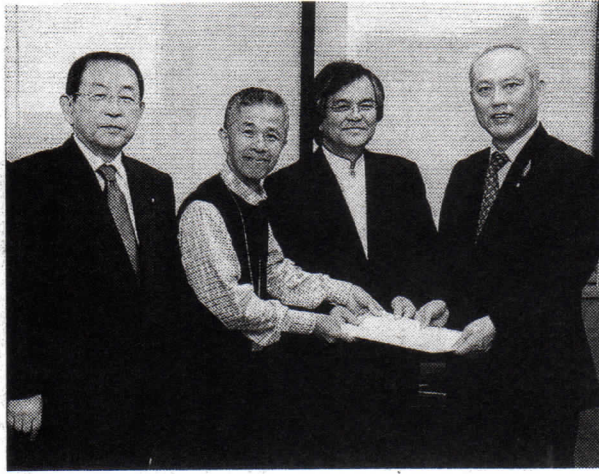


遺骨収集で失業者支援

那覇市



舛添厚労相(右端、当時)に遺骨収集の事業化を要望する具志堅代表(左から2人目)と東氏(左端) 11月4日 厚労省

緊急雇用創出事業を活用

那覇市は、9日から戦没者の遺骨収集を行うボランティア団体の「ガンマファイヤー」(具志堅隆松代表)とともにホームレスの自立支援を行う特定非営利活動法人(NPO法人)「プロミスキーパーズ」(山内昌良代表)に委託し、同市真嘉比地区で遺骨収集事業を開始する。

公明党が推進した緊急雇用創出事業を活用したもので、雇用予定数は55人。「プロミスキーパーズ」で寮生活を送る20人のほか、市内のホームレスを優先にハローワークを通じて35人を採用する。

遺骨収集ボランティア「ガンマファイヤー」

9月28日から求人を開始したところ、翌日には70人を超える応募があった。

具志堅 隆松 代表

沖縄に眠る戦死者の遺骨収集を失業者やホームレスの仕事にしよう

弱者助け合う構想が具体化

この人なら耳を傾けて、くれないのではと思いつ、の思いが政治に結びついた瞬間でした。舛添 東さんには、現代の弱者に、現代の弱者助け合う構想を具体化する手助けをしてください。東さんに感謝しています。

この状況の中、

けなない提案。信じられ

た。事業期間は、12月4日までの約2カ月間で、事業費は約2300万円。遺骨収集先は、同市の真嘉比小学校裏で、住民から「大道森」と呼ばれる地域で行われる。県内には、今もなお多くの戦死者の遺骨が眠っており、真嘉比地区は沖縄の事業化を後押し。東氏は、具志堅代表の遺骨収集活動に共鳴した公明党の東順治衆議議員は、今回の事業化を後押し。東氏

は具志堅代表と今年4月、遺骨収集を失業者対策につなげ、事業化するよう舛添要一厚生労働相(当時)に要望。舛添厚労相は、要望の趣旨に理解を示すとともに、「雇用対策と遺骨収集をマッチングさせたい」と述べ、具体的に支援する意向を示していた。

手を差し伸べ、お互いが